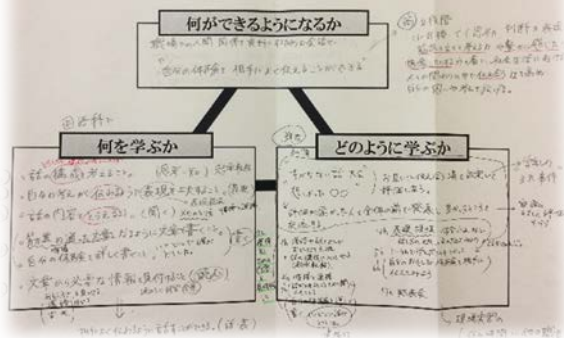


知的障がい特別支援学校のための 校内研修シート

国語科で育成を目指す資質・能力



育成を目指す
資質・能力の
明確化

「主体的・対話的で
深い学び」の実現に
向けた授業改善



月	単元名	ねらい	指導 時間	学習活動	教材の配達事項	教科書以外の 教材
4	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
5	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
6	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
7	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
8	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
9	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
10	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
11	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				
12	おとぎ話の おとぎ話	おとぎ話の おとぎ話				

「カリキュラム・
マネジメント」に
資する取組の推進

目 次

I	本資料について・・・・・・・・・・	1
II	校内研修シートの構成・・・・・・・・	2
III	校内研修シートの内容・・・・・・・・	3
IV	活用の手引き・・・・・・・・・・	4
V	研修シートとカリキュラム・マネジメント・・	11
VI	校内研修シート・・・・・・・・・・	14

研修シート1「学びの過程で予想される困難さを把握しよう！」	14
研修シート2「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」	16
研修シート3「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」	18
研修シート4「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」	20
研修シート5「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」	22
研修シート6「カリキュラム・マネジメントについて理解を深めよう！」	24

＜研究協力校等で工夫した研修シート＞

研修シート「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」（単元の指導計画）	26
研修シート「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」（学習指導案）	27
研修シート「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」	28

＜巻末資料＞

学びの履歴を把握するための各教科の目標・内容一覧表（試案）

I 本資料について

～校内研修シートとは～

- ・ 知的障がい特別支援学校の校内研修の充実を図るため、当センターが平成30年度に実施した研修講座等において、参考となる内容をポイントとしてまとめ、それらを踏まえた研修が簡便に実施できるように作成しました。

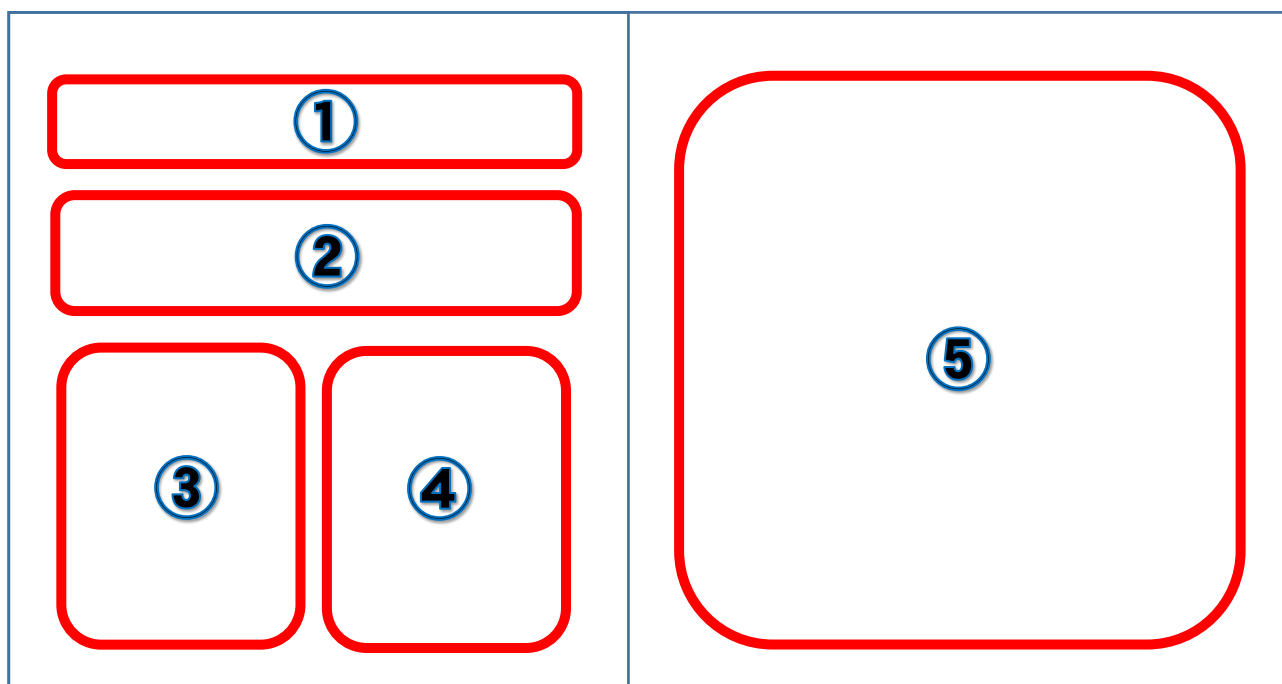
～校内研修の充実に向けて～

- ・ 知的障がい特別支援学校においても、学習指導要領改訂の趣旨を踏まえ、「育成を目指す資質・能力」を明確にしたり、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を推進したりできるよう、校内研修を通して具体的に取り組めるように工夫しました。

～ニーズに合わせた研修の取組～

- ・ 校内研修シートは、各学校の状況に応じて必要なシートを選んで活用できるようにするとともに、繰り返し何度も使用できるなど、各学校の研修ニーズに合わせやすいように工夫しました。

Ⅱ 校内研修シートの構成



①見出しについて

校内研修を行う上で、参加する方の目指す姿を分かりやすい言葉で伝えています。

②ポイントについて

当センターの基調講義等でポイントとなる内容を、分かりやすくまとめています。

③校内研修の手順について

校内研修等の実施時に、どのように進めると良いか具体的な手順（流れ）を記載しています。

④概要について

活用する際に具体的な手順と関連付けながら進めることができるよう分かりやすく示しています。

⑤演習用シートについて

校内研修での演習に活用するシートです。必要に応じてコピーすることにより、何度でも活用できるようにしています。

※校内研修シートを活用して演習を行ったあとは、必ず振り返りを行いましょう!

Ⅲ 校内研修シートの内容

研修シート名	参考となる研修講座 【観点】	研修できる内容	想定 時間
研修シート 1 「学びの過程で予想される 困難さを把握しよう！」	発達障がい専門性向上 研修講座 【児童生徒が意欲的に学ぶ ために】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・児童生徒の学びの過程で予想される学びの困難さを把握する。 ・困難さに対する手立てを、指導者同士で考えたり、共有したりする。	60 分
研修シート 2 「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」	自立活動研修講座 【調和の取れた育成を目指した自立活動の指導】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・障がいによる学習上又は生活上の困難さを明確にする。 ・指導すべき課題をどのように指導するか、具体的な指導場面や方法を全教育活動を通じて考える。	60 分
研修シート 3 「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」	教科等指導力向上 研修講座 【授業づくりの基本】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・目指す児童生徒像の実現に向けた授業づくりを検討する。 ・単元計画や1 単位時間の学習指導案を作成する。	60 分
研修シート 4 「各教科等の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」	特別支援学校専門コース 【授業づくりの課題と改善の必要性】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・知的障がい特別支援学校の各教科等の目標や内容を踏まえ、指導すべき内容を選択する。 ・指導すべき内容を基に、年間指導計画を作成する。	60 分
研修シート 5 「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」	授業改善コース 【授業改善の方策】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・各教科等を合わせた指導で取り扱っている各教科等の内容を分析する。 ・分析した内容と個別の指導計画の各教科等の指導内容を比較する。	60 分
研修シート 6 「カリキュラム・マネジメントについての理解を深めよう！」	新学習指導要領 研修講座 【新学習指導要領の理解】	・育成を目指す資質・能力を明確にする。 ・カリキュラム・マネジメントのポイントから、学校における現状と課題を整理する。 ・今後、自校や自身の実践で取り組みたいことを明確にする。	60 分

参考となる研修講座は、当センターが平成 30 年度に実施したものです。

IV 活用の手引き

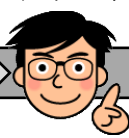
校内研修シートを活用するときや記入する際の留意点、記入内容を考える際のポイントをまとめた。

【研修シートを活用する際の共通のポイント】



(質問)

「目指す児童生徒」の姿を記入する時、どんな視点で考えるとよいでしょうか？



(ポイント)

生活年齢や、学校で学ぶ残りの年数を視野に入れ、「〇〇年後の姿」や「卒業時に見られる具体的な姿」から想定することが考えられます。



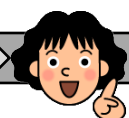
(成果)

演習等を行う中で、「日常生活や社会生活の中で、具体的にどのような姿が見られたらよいのか」という視点で、検討されている先生が多くいました。



(質問)

「育成を目指す資質・能力」の部分で、「何ができるようになるか」のところは、どのような考え方で記入するとよいでしょうか？



(ポイント)

「何ができるようになるか」を記入する場合、単元や1単位時間の指導後に、「こんな姿が見られる」、「〇〇のような姿になっている」など、児童生徒が変容した具体的な姿を考えて記入します。



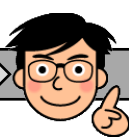
(成果)

研究協力校では、「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」、「学びに向かう力・人間性等」の3つの柱に沿って記入することにより、書きやすくなったという意見がありました。



(質問)

「育成を目指す資質・能力」の部分で、「何を学ぶか」のところは、どのような考え方で記入するとよいでしょうか？



(ポイント)

「何を学ぶか」を記入する場合、「目指す児童生徒の姿」や「何ができるようになるのか」を踏まえながら、目指す資質・能力を身に付けるために必要な学ぶ内容を考えて記入します。



(成果)

研究協力校では、「育成を目指す資質・能力」から学ぶ内容を検討したことで、これまでの年間指導計画の見直しにつながられる授業改善となったという意見がありました。



(質問)

「育成を目指す資質・能力」の部分で、「どのように学ぶか」のところは、どのような考え方で記入するとよいのでしょうか？



(ポイント)

「どのように学ぶか」を記入する場合、知的障がいのある児童生徒の教育的対応の基本や学びの過程で想定される困難さに対する手立て・配慮などを踏まえて記入します。



(成果)

研究協力校では、児童生徒にどのような姿が見られたら達成といえるのかという視点を持つことで、必要な手立て等が書きやすくなったという意見がありました。



(質問)

実際の指導の場面では、集団で学習をしています。基本情報の欄には、全ての児童生徒の実態等を記入するのでしょうか？



(ポイント)

この研修シートは、一人の児童又は生徒について検討することを通して、新学習指導要領の趣旨を踏まえた授業づくりの考え方について理解を深めるためのものです。対象とする一人の児童生徒を想定して記入してください。



(成果)

研究協力校では、新学習指導要領で示されている「育成を目指す資質・能力」を明確にした授業づくりの考え方について理解が深まり、集団での学習においても授業改善に必要な視点を整理することができたという意見がありました。

【各研修シートを記入する際のポイント】

＜研修シート1の活用にあたって＞

「学びの過程で予想される困難さを把握しよう！」



（質問）

集団で学習をしていますが、同じ学習に取り組むことが難しい児童生徒がいる場合、どうしたらよいですか？



（ポイント）

当該児童生徒にとって、具体的に学習活動のどの場面のどのようなことが難しいのか、「予想される困難さ」を明確にすることがポイントです。



（成果）

研究協力校では、「予想される困難さ」を明確にし、困難さに応じて教材を工夫したり、指導者で支援方法を共有したりすることで、最後まで集団で学習に参加できたという成果がありました。



（質問）

集団での学習において、同じ学習に取り組むことが難しい児童生徒について、「予想される困難さ」を考えたのですが、具体的な手立ては、どのように考えるとよいですか？



（ポイント）

各教科等で指導の手立てを考える場合、小・中学校学習指導要領解説の各教科「指導計画の作成と内容の取扱い」に、学習活動において生じる困難さに応じた指導の工夫の意図や手立てについての例が示されているので参考にするとよいです。



（成果）

研究協力校では、「予想される困難さ」について、事前に手立て等を検討したことにより、児童生徒の学習の充実につながるとともに、他の児童生徒にも有効な手立てとして、授業改善に生かすことができたという成果がありました。

<研修シート2の活用にあたって>

「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」



(質問)

「指導する内容」の部分で、「自立活動における具体的な指導内容及び区分」のところは、どのような考え方で記入するとよいでしょうか？



(ポイント)

特別支援学校教育要領・学習指導要領解説自立活動編（幼稚園・小学部・中学部）第7章「自立活動の個別の指導計画の作成と内容の取扱い」を参考とします。



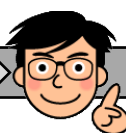
(成果)

抽出した課題同士がどのように関連しているのか整理し、優先となる中心的な課題を導き出すことで、特に重要となる自立活動の指導内容を明確にすることができ、学校生活全体を通じた指導につながるといった意見がありました。



(質問)

「全教育活動を通じて指導する場面」の部分で、「指導する場面＜イメージ＞」のところは、どのような考え方で記入するとよいでしょうか？



(ポイント)

各教科等の指導と自立活動の指導の内容の関連を図り、効果的な指導を行うことを踏まえ、各教科等における指導の目標の達成を著しく損なったり、目標から逸脱したりすることのないように留意することが大切です。



(成果)

研究協力校では、個別の指導計画の目標との関連がより一層明確になり、各教科の指導目標や内容と自立活動の指導目標や内容を関連させ、学習指導案へ位置付けることができたといった意見がありました。



(質問)

「育成を目指す資質・能力」の部分で、「どのように学ぶか」のところは、どのような考え方で記入するとよいでしょうか？



(ポイント)

特定の方法（心理療法、感覚訓練等）を、機械的に当てはめるのではなく、個々の児童生徒の実態に適した方法を創意工夫することが大切です。



(成果)

研究協力校では、具体的な指導内容や指導場面をイメージすることや、指導者同士が共通理解を図って児童生徒に関わる事ができたという意見がありました。

<研修シート3の活用にあたって>

「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」



(質問)

「単元計画」を作成する部分で、記入にあたっては、どのような考え方で記入するとよいでしょう？



(ポイント)

「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」を単元全体でバランスよく位置付けるように検討します。



(成果)

研究協力校では、単元計画に記入欄を設定し、「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」をどの時間で行うのか明確にできるようにした取組がありました。



(質問)

「学習指導案」を作成する部分で、記入にあたっては、どのような考え方で記入するとよいでしょう？



(ポイント)

単元計画で位置付けた「主体的な学び」、「対話的な学び」、「深い学び」に沿って、学習内容と合わせて学習活動の工夫や学習過程の充実を図るようにします。



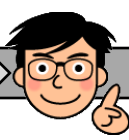
(成果)

演習等を行う中で、例えば、「主体的な学び」の学習過程の充実として、「見通し」と「振り返り」の場面をどのように行うとよいかという視点で検討している先生が多くいました。



(質問)

「単元計画」や「学習指導案」などを通して授業改善を行う場合、どのような視点で考えるとよいでしょうか？



(ポイント)

「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けては、全く異なる指導方法を導入しなければならないと捉える必要はないですが、「学習者の主体は児童生徒である」と指導者が捉えることが大切です。



(成果)

研究協力校では、校内研修シートを用いることで、単元計画を立てる際に「目指す子供の姿」から、「育成を目指す資質・能力」の3つの柱ごとに「何ができるようになるか」「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を具体的に考えることができましたという意見がありました。

<研修シート4の活用にあたって>

「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」



(質問)

「学びの履歴を把握」する部分で、記入にあたっては、どのような考え方で記入するとよいですか？



(ポイント)

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の「目標・内容の一覧」を参考に、各教科の段階をもとに、どの程度の知識等を身に付けているのか把握することが大切です。



(成果)

演習等を行う中で、各教科の「目標や内容の一覧」を参照することにより、どのような指導内容を取り扱うとよいのか参考になったという意見が多くありました。



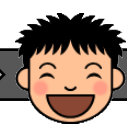
(質問)

「教科等横断的な視点」で年間指導計画を検討する場合、どのような視点に基づいて考えるとよいですか？



(ポイント)

育成を目指す資質・能力を身に付けるために、他の教科等において関連する内容を、同時期に取り扱うなどの工夫をすることが大切です。



(成果)

演習等を行う中で、他教科との関連を考える際、育成を目指す資質・能力を明確にすることで、他教科で取り扱う指導内容を具体的に考えることができたという意見が多くありました。



(質問)

「各教科等を合わせた指導」や「学校行事等の実践的・実証的な学習」の年間指導計画を検討する場合、どのような視点に基づいて考えるとよいですか？



(ポイント)

他の教科で身に付けた「知識及び技能」や「思考力・判断力・表現力等」を実際に結び付けたり、関連付けたりできるような機会として捉え、他の教科でどのような指導内容を取り扱っているのか検討することが大切です。



(成果)

研究協力校では、校内研修で、教科等横断的な視点から、各教科で学習している内容が実践的な教育活動とどのように関連付けられているか可視化することで、それぞれの指導内容を見つめ直すことができました。

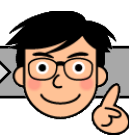
<研修シート5の活用にあたって>

「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」



(質問)

「個別の指導計画の目標の達成のために必要な『各教科等の内容』で、記入にあたっては、どのような考え方で記入するとよいですか？」



(ポイント)

特別支援学校学習指導要領解説各教科等編（小学部・中学部）の「目標・内容の一覧」を参考に、各教科のどの段階か等、どの程度の知識等を身に付けているのか把握することが大切です。



(成果)

演習では、「目標・内容の一覧」を参考にすることで、学びの履歴を把握でき、次にどの段階の内容を取り扱うとよいか、焦点化しやすくなったという意見が多くありました。

<研修シート6の活用にあたって>

「カリキュラム・マネジメントについて理解を深めよう！」



(質問)

「課題を解決するための取組」は、どのような考え方で記入するとよいですか？」



(ポイント)

学校として目指す姿を明確にするために、現状と課題から導き出した内容を、教職員同士で話し合い、共有することで、教職員一人一人ができることを具体的に検討することが大切です。



(成果)

演習では、学校として目指す子供像の実現に向け大切にしたいことなどが、教職員一人一人によって異なることが明らかになったことから、意見や考えをまとめたり校内で共有したりすることが大切であるという意見が多くありました。

校内研修シートは、研修シートを使うことが目的ではありません。研修シートを用いて校内研究や研修を行うことにより、普段の授業を見つめ直す視点（見方や考え方）を持ち、授業づくりや授業改善に生かすことが大切です。

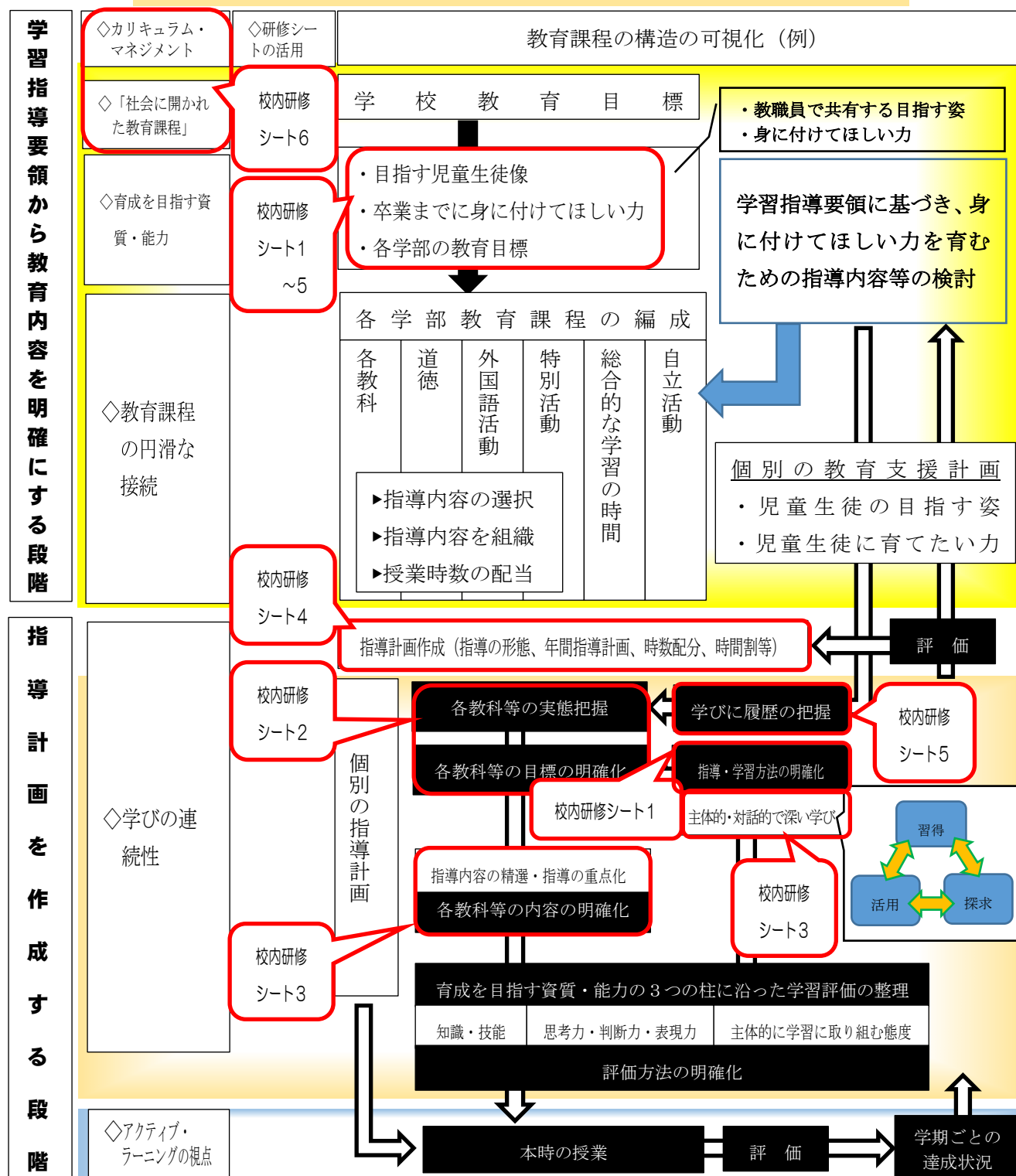
各学校の実情や研究テーマ等に基づいて、どのように校内研修シートを活用するか検討したり、各学校がオーダーメイドの研修シートを開発したりするなど、様々な工夫をしながら積極的に活用してください。

V 研修シートとカリキュラム・マネジメント

本研究において、校内研修シートは、それらを用いて授業改善の取組を推進することと合わせて、教育課程全体の質的な改善を図るカリキュラム・マネジメントにも活用できると考えた。

以下に、教育課程の構造を可視化した図を用いて、どの部分でどの研修シートを活用できるか、関連を整理した。

【校内研修シートとカリキュラム・マネジメントとの関連図】



VI 校内研修シート

知的障がい特別支援学校用校内研修シート 1 〈発達障がい専門性向上研修講座から〉

「学びの過程で予想される困難さを把握しよう！」

研修シートに取り組む前に ～授業づくりを行う上で押さえておきたいポイント

ポイント1 全ての教師が障がいに関する知識や配慮等について正しい理解と認識を深め、組織的な対応をすることが大切

基調講義から

1	～しやすい環境を整える	2	支援内容や教材を工夫し、成功体験に導く
3	魅力的で達成感のある授業を作る	4	問題行動は機能に応じた対応をする
5	気持ちをコントロールする方法を学ばせる	6	人とつながる力を育てる
7	周用の理解と了解度を高める		

ポイント2 障がいの種類や程度を的確に把握した上で、全ての教科等において、一人一人の教育的ニーズに応じたきめ細かな指導や支援ができるよう、各教科等の学びの過程において考えられる困難さに対する指導の工夫の意図や手立てを明確にすることが必要

研修シート1の取り組み方 ～研修シートを活用するための手順～

- ① 対象とする教科を1つ決めて、基本情報を記入します。(5分)
- ② 授業後の児童生徒の姿を考えて、「目指す児童生徒の姿」を記入します。(5分)
- ③ 「目指す児童生徒の姿」から、単元等で「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」について考え、記入します。(15分)

ここまで書くことができたなら、
他の先生と交流しましょう。(10分)

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、
すぐに書き直しましょう。

- ④ 取り組む学習活動と取り組む際に予想される困難さを記入します。(15 分)
- ⑤ 予想される困難さに対応するために考えた、手立てや支援内容、配慮事項を記入し、予想される困難さとの関係を線で結びましょう。

予想される困難さから考えた手立てや支援内容、
配慮事項を他の先生と交流しましょう。（10分）

研修シート1「学びの過程で予想される困難さを把握しよう!!」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

教科名		①	指導時期	
單元名			指導章節	
児童生徒の実態			学 年	児童生徒数

【手順 ②】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

<横ができるようにする>

③

<縦を学ぶ> のように学ぶ>

【手順 ④】「学習活動及び予想される困難さ」を記入します。

学習過程・学習活動(1)	予想される困難さ(1)	④
学習過程・学習活動(2)	予想される困難さ(2)	
学習過程・学習活動(3)	予想される困難さ(3)	

【手順 ⑤】「平立て・支援内容・配慮事項」を記入します。

⑤

【手順 ⑥】「目標す児童生徒の姿」を記入します。

②

研修シート1「学びの過程で予想される困難さを把握しよう！」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

教科名		指導時数	
単元名		指導者数	
児童生徒の実態		学 年 児童生徒数	

【手順 ③】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞

＜何を学ぶか＞

＜どのように学ぶか＞

【手順 ④】「学習活動及び予想される困難さ」を記入します。

学習過程・学習活動(1)	予想される困難さ(1)
学習過程・学習活動(2)	予想される困難さ(2)
学習過程・学習活動(3)	予想される困難さ(3)

【手順 ⑤】「手立て・支援内容・配慮事項」を記入します。

【手順 ②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

--

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

知的障がい特別支援学校用校内研修シート 2 〈自立活動研修講座から〉

「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」

研修シートに取り組む前に ～自立活動の指導を行う上で押さえておきたいポイント

ポイント1 自立活動の指導に当たっては、新学習指導要領の「個別の指導計画の作成と内容の取扱い」において示されている改訂のポイントに留意し、教職員の共通理解の下、生活上又は学習上の改善・克服を図るために指導することが重要

ア 指導目標や指導内容を設定する過程において、指導すべき課題を明確にすること

イ 発達の進んでいる側面をさらに伸ばすための指導内容を設定し、自信を持って意欲的に取り組めるようにすること

ウ 自己選択・自己決定する機会を設け、思考・判断・表現する力を高めることができるような指導内容を取り上げること

エ 自立活動を学ぶことの意義について考えさせるような指導内容を取り上げること

ポイント2 知的障がいのある児童生徒の教科別の指導においては、教科の目標を達成するために、自立活動の指導目標や内容を参考にして、配慮や手立てを行う

研修シート2の組み方 ～研修シートを活用するための手順～

- ① 基本的な情報を記入します。(5分)
- ② 児童生徒の実態を踏まえ、「目指す児童生徒の姿」を記入します。(5分)
- ③ 「目指す児童生徒の姿」から、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」、「学んだことをどう活用するか」について考え、記入します。(10分)

ここまで書くことができたなら、
他の先生と交流しましょう。(10分)

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、
すぐに書き直しましょう。

- ④ 課題の中から、優先順位を決め、指導する内容を明確にします。また、指導内容は自立活動のどの区分と関連しているのかをチェックしましょう。(10分)
- ⑤ 優先順位を決めた指導内容は、学校生活のどのような機会を通じて指導するのか、他の教師と共通理解を図ることができるよう、具体的に記入します。(10分)

指導内容や指導場面を
他の先生と交流しましょう。(10分)

研修シート2「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

領域名	自立活動	学年
児童生徒の実態		児童生徒名

【手順 ③】「育成を目指す定算・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞

③

＜何を学ぶか＞

ように学ぶか＞

【手順 4】「指導する内容」を記入します。		【手順 6】「全教育活動を通じて指導する場面」を決定し、記入します。」	
優先順位	自立活動における 具体的な指導内容及び区分	<指導する場面（イメージ）>	
優先順位 1	<指導内容> ☐ 健康の保持 ☐ 身体的安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション <指導内容>	<指導する場面（イメージ）> <指導する場面（イメージ）> <指導する場面（イメージ）>	
優先順位 2	4 ☐ 健康の保持 ☐ 身体的安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション <指導内容>	5 <指導する場面（イメージ）> <指導する場面（イメージ）>	
優先順位 3	☐ 健康の保持 ☐ 身体的安定 ☐ 人間関係の形成 ☐ 環境の把握 ☐ 身体の動き ☐ コミュニケーション <指導内容>	<指導する場面（イメージ）> <指導する場面（イメージ）>	

【手順 4】「目指す児童生徒の姿」を記入します

研修シート2「指導すべき課題を明確化し、全教育活動を通じて適切に指導しよう！」

【手順①】「基本情報」を記入します。

領域名	自立活動	学年	
児童生徒の実態		児童生徒名	

【手順③】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞

＜何を学ぶか＞

＜どのように学ぶか＞

【手順④】「指導する内容」を記入します。

【手順⑤】「全教育活動を通じて指導する場面」を決定し、記入します。」

優先順位	自立活動における 具体的な指導内容及び区分		
優先順位 1	＜指導内容＞		
	☐ 健康の保持	☐ 心理的安定	☐ 人間関係の形成
	☐ 環境の把握	☐ 身体の動き	☐ コミュニケーション
優先順位 2	＜指導内容＞		
	☐ 健康の保持	☐ 心理的安定	☐ 人間関係の形成
	☐ 環境の把握	☐ 身体の動き	☐ コミュニケーション
優先順位 3	＜指導内容＞		
	☐ 健康の保持	☐ 心理的安定	☐ 人間関係の形成
	☐ 環境の把握	☐ 身体の動き	☐ コミュニケーション

＜指導する場面（イメージ）＞

＜指導する場面（イメージ）＞

＜指導する場面（イメージ）＞

＜指導する場面（イメージ）＞

＜指導する場面（イメージ）＞

＜指導する場面（イメージ）＞

【手順②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」

研修シートに取り組む前に ～授業づくりを行う上で押さえておきたいポイント

ポイント1 カリキュラム・マネジメントの3つの側面を通して、組織的かつ計画的に各学校の教育活動の質を高めていくことが重要

ア 児童生徒や学校、地域の実態を適切に把握し、教育活動の目的や目標の実現に必要な教育の内容等を教科等横断的な視点で組み立てていくこと

イ 教育課程の実施状況を評価してその改善を図っていくこと

ウ 教育課程の実施に必要な人的又は物的な体制を確保するとともにその改善を図っていくこと

ポイント2 各教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定し、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導すること

研修シート3の取り組み方 ～研修シートを活用するための手順～

① 対象とする教科等を1つ決めて、基本情報を記入します。(4分)

② 授業後の児童生徒の姿を考えて、「目指す児童生徒の姿」を記入します。(5分)

③ 「目指す児童生徒の姿」から、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」について考え、記入します。(15分)

ここまで書くことができたなら、
他の先生と交流しましょう。(10分)

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、
すぐに書き直しましょう。

④ 単元計画を作成する場合は、左側の記入欄を、1単位時間の学習指導案を作成する場合は、右側の記入欄を活用します。どちらを作成するか決めてください。(1分)

⑤ ②や③を参考にしながら、授業づくりに必要な単元計画や学習指導案、どちらかを完成させます。(15分)

完成させた単元計画及び学習指導案について、
他の先生と交流しましょう。(10分)

研修シート3「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

教科名		指導時数	
単元名		指導者数	
児童生徒の実態		学 年	
		児童生徒数	

【手順 ②】「育成を目指す資質・能力」を記入します。
 <何ができるようになるか>
 <何を学ぶか>
 <どのように学ぶか>

【手順 ④⑤】単元計画を作成する場合はこちらに記入します。学習指導案を作成する場合はこちらに記入します。

1		学習活動	
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

【手順 ②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行います。

研修シート3「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

① 教科名		指導時数	
単元名		指導者数	
児童生徒の実態		学 年 児童生徒数	

【手順 ③】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞

＜何を学ぶか＞

＜どのように学ぶか＞

【手順 ④ ⑤】単元計画を作成する場合はこちらに記入します。

学習指導案を作成する場合はこちらに記入します。

1		学習過程	学習活動
2			
3			
4			
5			
6			
7			

【手順 ②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

--

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

知的障がい特別支援学校用校内研修シート4 〈特別支援学校専門コースから〉

「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」

研修シートに取り組む前に ～年間指導計画を作成する上で押さえておきたいポイント

ポイント1 児童生徒一人一人の学びの履歴を的確に把握することが必要

- ア 学びの場の連続性だけでなく、学ぶ内容についての連続性も明確に示されたことを理解することが大切
- イ 学びの履歴や各教科等における児童生徒の実態把握に基づき、各教科等の指導において、「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を踏まえた具体的な指導計画（個別の年間指導計画）を立案する
- ウ 各教科等の指導における年間指導計画の作成においては、必要に応じて一人一人の個別の配慮事項を記載するとともに、教科等横断的な視点から、同時期に取り扱うことが望ましい他教科等の指導内容との関連を明記する

ポイント2 教科の指導に当たっては、各教科の段階に示す内容を基に、児童又は生徒の知的障がいの状態や経験等に応じて、具体的に指導内容を設定し、小学部は6年間、中学部は3年間を見通して計画的に指導すること

研修シート4の取り組み方 ～研修シートを活用するための手順～

① 対象とする教科を1つ決めて、基本情報を記入します。（1分）

② 教科の段階表を確認しながら、対象となる児童生徒の学びの履歴を把握します。（10分）

③ 把握した学びの履歴から、「教科で育成を目指す資質・能力」を記入します。（10分）

ここまで書くことができたなら、他の先生と交流しましょう。（9分）

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、すぐに書き直しましょう。

④ 「教科で育成を目指す資質・能力」から、教科の「（個別の）年間指導計画」を作成します。

- ・単元（題材）や目標（ねらい）は、＜何を学ぶか＞を参考に記入します。
- ・学習活動や個別の配慮事項は、＜どのように学ぶか＞を参考に記入します。
- ・他教科等との関連は、＜何ができるようになるか＞を参考に記入します。（20分）

作成した（個別の）年間指導計画について他の先生と交流しましょう。（10分）

研修シート4「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」

【手順1】「基本情報」を記入します。

教科名	①	学年	
-----	---	----	--

【手順2】「特別支援学校学習指導要領の各教科の段階表」を確認し、指導する段階に○を付けましょう。（学びの履歴）

学 部	小学部			中学部		高等部	
対 象	1段階	2段階	3段階	1段階	2段階	1段階	2段階

②

【手順3】「教科で育成を目指す資質・能力」を明確にします。

＜何ができるようになるか＞

＜何を学ぶか＞

＜どのように学ぶか＞

③

【手順4】「個別の年間指導計画」を構築します。

月	単元・題材・名	単元・目標	学習活動	個別の配慮事項	他教科等との関連
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					
11					
12					

④

※ 研修シートを活用した詳細説明は、裏の裏の裏行いましょう。

研修シート4「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」

【手順①】「基本情報」を記入します。

教科名		学年	
-----	--	----	--

【手順②】特別支援学校学習指導要領の各教科の段階表を用いて、該当する段階に○を付けましょう。(学びの履歴の把握)

学 部	小学部			中学部		高等部	
段 階	1 段階	2 段階	3 段階	1 段階	2 段階	1 段階	2 段階
対 象							

【手順③】「教科で育成を目指す資質・能力」を明確にします。

＜何ができるようになるか＞

＜何を学ぶか＞

＜どのように学ぶか＞

【手順④】「個別の年間指導計画」を構想します。

月	単元（題材）名	時数	単元の目標	学習活動	個別の配慮事項	他教科等との関連
4						
5						
6						
7						

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

知的障がい特別支援学校用校内研修シート5 〈授業改善コースから〉

「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」

研修シートに取り組む前に～授業づくりを行う上で押さえておきたいポイント

ポイント1 各教科等を合わせて指導を行う場合においても、各教科等の目標を達成していくことになり、育成を目指す資質・能力を明確にして指導計画を立てることが重要

ポイント2 児童又は生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくよう工夫すること

研修シート5の取り組み方 ～研修シートを活用するための手順～

- ① 対象とする各教科等を合わせた指導を1つ決めて、基本情報を記入します。(4分)
- ② 児童生徒の個別の指導計画の目標から、①で決めた各教科等を合わせた指導の目標を1つ選んで記入します。(3分)
- ③ ②の個別の指導計画の目標の達成のために必要な各教科等の内容を学習指導要領解説の「目標・内容の一覧」から書き写します。(15分)
- ④ 個別の指導計画の目標を達成するために、各教科等の内容を学ぶことにより、「何ができるようになるか」という児童生徒の姿を記入します。(5分)
- ⑤ 「何ができるようになるか」ということを目指し、学ぶ内容に適した指導形態、指導の内容や方法を記入します。(13分)

ここまで書くことができたなら、
他の先生と交流しましょう。(10分)

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、
すぐに書き直しましょう。

育成を目指す資質・能力と各教科等の内容を
他の先生と交流しましょう。(10分)

研修シート5「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」

【手順①】「基本情報」を記入します。

各教科等を合わせた指導名	指導時数
単元名	指導者数
児童生徒の実態	学 年
	児童生徒数

①

【手順④】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞（前期の目標）

④

【手順⑤】学び方について考えて記入します。

＜何を学ぶか＞

【手順③】で整理した各教科の内容が、
＜何を学ぶか＞になります。

＜どのように学ぶか＞（指導形態、内容や方法）

⑤

【手順②】「個別の指導計画の目標」を記入します。

②

【手順③】「個別の指導計画の目標の達成のために必要な「各教科等の内容」を記入します。

教 科	__学部__段階	__学部__段階	__学部__段階

③

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行います。

研修シート5「各教科等を合わせた指導の指導内容を確認しよう！」

【手順①】「基本情報」を記入します。

各教科等を合わせた指導名		指導時数	
単元名		指導者数	
児童生徒の実態		学 年 児童生徒数	

【手順④】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

＜何ができるようになるか＞（前期の目標）

【手順⑤】学び方について考えて記入します。

＜何を学ぶか＞

【手順③】で整理した各教科の内容が、
＜何を学ぶか＞になります。

＜どのように学ぶか＞（指導形態、内容や方法）

【手順②】「個別の指導計画の目標」を一つ選んで記入します。

【手順③】個別の指導計画の目標の達成のために必要な「各教科等の内容」を記入します。

教 科	___学部___段階	___学部___段階	___学部___段階

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

「カリキュラム・マネジメントについて理解を深めよう！」

研修シートに取り組む前に ～新学習指導要領の趣旨を理解するためのポイント

ポイント1 新学習指導要領において重視されているキーワード

- ア 社会に開かれた教育課程 イ 育成を目指す資質・能力
ウ 主体的・対話的で深い学び エ カリキュラム・マネジメント

ポイント2 各学校においては、教科等の目標や内容を見通し、教科等横断的な学習を充実することや、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を、単元及び題材などの内容や時間のまとまりを見通して行うことが大切。

カリキュラム・マネジメントを推進するために、児童生徒に何が身に付いたかという学習の成果を的確に捉え、個別の指導計画の実施状況の評価と改善を、教育課程の評価と改善につなげていくように工夫すること。

研修シート6の取り組み方 ～研修シートを活用するための手順～

①② この研修シートで目指すことと、カリキュラム・マネジメントのポイントとなる5点を確認します。(5分)

③ カリキュラム・マネジメントのポイントを参考に、学校における現状と課題を記入します。(10分)

④ ③の現状と課題から、学校として目指す姿(理想像)を記入します。(5分)

⑤ ③、④の現状と課題、目指す姿から、学校としてどのような取組が必要か、考えられる解決策を記入します。(10分)

ここまで書くことができれば、他の先生と交流しましょう。(10分)

※交流を通して、変更や修正したいことがあれば、すぐに書き直しましょう。

⑥ カリキュラム・マネジメントについて理解して、児童生徒の指導に当たるために、個人として「何を学ぶか」(これからどのようなことが必要か)を記入します。(5分)

⑦ ⑥を「どのように学ぶか」(どのように取り組むか)を記入します。(5分)

記載した内容を基に、他の先生と交流しましょう(10分)

研修シート6「カリキュラム・マネジメントについて理解を深めよう！」

この研修シートは、カリキュラム・マネジメントの考え方の一部を理解するためのものです。教職員自身が「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を考えることにより、児童生徒を主体とした①～⑤の研修シートの考え方の手助けとなります。

【手順1】この研修シートを通して、自分が何ができるようになるかを確認します。

＜何ができるようになるか＞
カリキュラム・マネジメントについて理解し、児童生徒の指導に当たることができるようになる。

①

【手順2】自分自身がこれから何を学ぶ必要があるかを記入します。

＜何を学ぶか＞

⑥

【手順3】何をどのように学んでいくかを記入します。

＜どのように学ぶか＞

⑦

【手順4】「カリキュラム・マネジメントのポイント」を確認します。

学校全体、学部、学科、学年、各教科等において、「何ができるようになるか」(育成を目指す資質・能力)が明確になっているか。
教科等横断的な視点で指導計画を立てているか。(教科間の関連性を意識しているか。)

個別の指導計画と改善に
② 資質、教育課程の
点があるか。

地域等の外部の資源を活用しながら、人的・物的資源を効果的に活用できているか。

校長の方針の下、全教職員が自分の役割を理解し、カリキュラム・マネジメントに参画する意識を持つことができているか。

【手順5】現状と課題から、学校として何を目標にしたら良いかを記入します。

現状と課題

③

【手順6】課題を解決するための取組を考えて、記入します。

取組①

取組②

⑤

④

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

研修シート6「カリキュラム・マネジメントについて理解を深めよう！」

この研修シートは、カリキュラム・マネジメントの考え方の一部を理解するためのものです。
教職員自身が「何ができるようになるか」、「何を学ぶか」、「どのように学ぶか」を考えることにより、児童生徒を主体とした①～⑤の研修シートの考え方の手助けとなります。

【手順①】この研修を通して、自分が何ができるようになるかを確認します。

＜何ができるようになるか＞

カリキュラム・マネジメントについて理解し、
児童生徒の指導に当たることができるようになる。

【手順⑥】自分自身がこれから何を学ぶ必要があるかを記入します。

＜何を学ぶか＞

【手順⑦】⑥をどのように学んでいくかを記入します。

＜どのように学ぶか＞

【手順②】「カリキュラム・マネジメントのポイント」を確認します。

【手順③】「学校における現状と課題」と思われることを記入します。

カリキュラム・マネジメントのポイント	学校全体、学部、学科、学年、各教科等において、「何ができるようになるか」（育成を目指す資質・能力）が明確になっているか。
	教科等横断的な視点で指導計画を立てているか。（教科間の関連性を意識しているか。）
	個別の指導計画の評価と改善が、教育課程の評価と改善につながっているか。
	地域等の外部の資源を活用しながら、人的・物的資源を効果的に活用できているか。
	校長の方針の下、全教職員が自分の役割を理解し、カリキュラム・マネジメントに参画する意識を持つことができているか。

現状と課題

【手順⑤】課題を解決するための取組を考えて、記入します。

取組①

取組②

【手順④】現状と課題から、学校として何を目指したらよいかを記入します。

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

研修シート「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」（単元の指導計画）

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

教科名		指導時数	
単元名		指導者数	
児童生徒の実態		学 年 児童生徒数	

【手順 ③】単元で「育成を目指す資質・能力」を記入します。

<何ができるようになるか>

<何を学ぶか>

<どのように学ぶか>

【手順 ④】単元の指導計画を記入します。

題材名	時数	学習内容 (何を学ぶか)	学習活動・学習方法 (どのように学ぶか)	主 体 的	対 話 的	深 い

【手順 ②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

研修シート「目指す児童生徒の姿から、授業づくりを考えよう！」(学習指導案)

【手順 ⑤】 この授業で「育成を目指す資質・能力」を記入します。

<何ができるようになるか>

<何を学ぶか>

<どのように学ぶか>

【手順 ⑥】 学習指導案の内容を記入します。

学習過程	学習内容 (何を学ぶか)	学習活動・学習方法 (どのように学ぶか)	配慮事項

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

研修シート「各教科の目標や内容を踏まえた年間指導計画を作成しよう！」

【手順 ①】「基本情報」を記入します。

教科名		年間授業 時数	1学期 2学期 3学期
児童生徒の 実態		指導者数	
		学 年 児童生徒数	

【手順 ③】「育成を目指す資質・能力」を記入します。

<何ができるようになるか>

<何を学ぶか>

<どのように学ぶか>

【手順 ④】各教科等の関連を図りながら、単元を配列します。

各教科名	4月	5月	6月	7月	8月
関連付けたい教科や教育活動					

【手順 ②】「目指す児童生徒の姿」を記入します。

--

※ 研修シートを活用した研修後は、振り返りを行いましょう。

学びの履歴を把握するための 各教科の目標・内容一覧表

学びの履歴を把握するための各教科目標・内容一覧表（試案）

生活科				教科の目標				段階							
教科の目標	＜小学部＞ 具体的な活動や体験を通して、生活に関わる見方・考え方を生かし、自立し生活を豊かにしていくための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1) 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び事前の特徴やよさ、それらの関わり等に気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。				小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階					
			思考力、判断力、表現力	(2) 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。											
			学びに向かう力、人間性等	(3) 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自身をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。											
段階の目標	知識及び技能			ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然に特徴に関心をもつとともに、身の回りの生活において必要な基本的な習慣や技能を身に付けるようにする。				☐							
				ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然に特徴の特徴や変化に気付くとともに、身近な生活において必要な習慣や技能を身に付けるようにする。					☐						
				ア 活動や体験の過程において、自分自身、身近な人々、社会及び自然に特徴の特徴やよさ、それらの関わりに気付くとともに、生活に必要な習慣や技能を身に付けるようにする。						☐					
	思考力、判断力、表現力等			イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて関心をもち、感じたことを伝えようとする。				☐							
				イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて気付き、感じたことを表現しようとする。					☐						
				イ 自分自身や身の回りの生活のことや、身近な人々、社会及び自然と自分との関わりについて理解し、考えたことを表現することができるようにする。						☐					
	学びに向かう力、人間性等			ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に関心をもち、意欲をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。				☐							
				ウ 自分のことに取り組もうとしたり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけようとして、意欲や自信をもって学んだり、生活に生かそうとしたりする態度を養う。					☐						
				ウ 自分のことに取り組んだり、身近な人々、社会及び自然に自ら働きかけ、意欲や自信をもって学んだり、生活を豊かにしようとしたりする態度を養う。						☐					
国語科				教科の目標				段階							
教科の目標	＜小学部＞ 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1) 日常生活に必要な国語について、その特質を理解し使うことができるようにする。				小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階	
		中		(1) 日常生活や社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。											
		高		(1) 社会生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。											
	＜中学部＞ 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	思考力、判断力、表現力等	(2) 日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思考力や想像力を養う。											
		中		(2) 日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。											
		高		(2) 社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。											
	＜高等部＞ 言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で理解し表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	学びに向かう力、人間性等	(3) 言葉で伝え合うよさを感じるとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。											
		中		(3) 言葉がもつよさに気付くとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。											
		高		(3) 言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語を大切にしてその能力の向上を図る態度を養う。											
段階の目標	知識及び技能			ア 日常生活に必要な身近な言葉が分り使うようになるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。				☐							
				ア 日常生活に必要な身近な言葉を身に付けるとともに、いろいろな言葉や我が国の言語文化に触れることができるようにする。					☐						
				ア 日常生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に触れ、親しむことができるようにする。						☐					
				ア 日常生活や社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。							☐				
				ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しむことができるようにする。								☐			
				ア 社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の言語文化に親しんだり理解したりすることができるようにする。									☐		
	思考力、判断力、表現力等			イ 言葉をイメージしたり、言葉による関わりを受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。				☐							
				イ 言葉が表す事柄を想起したり受け止めたりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合い、自分の思いをもつことができるようにする。					☐						
				イ 出来事の順序を思い出す力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を身に付け、思い付いたり考えたりすることができるようにする。						☐					
				イ 順序立てて考える力や感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをもつことができるようにする。							☐				
				イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、日常生活や社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。								☐			
				イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えをまとめることができるようにする。								☐			
				イ 筋道立てて考える力や豊かに感じたり想像したりする力を養い、社会生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げることができるようにする。									☐		
	学びに向かう力、人間性等			ウ 言葉で表すことやそのよさを感じるとともに、言葉を使おうとする態度を養う。				☐							
				ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、読み聞かせに親しみ、言葉でのやり取りを聞いたり伝えたりしようとする態度を養う。					☐						
				ウ 言葉がもつよさを感じるとともに、図書に親しみ、思いや考えを伝えたり受け止めたりしようとする態度を養う。						☐					
				ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、図書に親しみ、国語で考えたり伝え合ったりしようとする態度を養う。							☐				
				ウ 言葉がもつよさに気付くとともに、いろいろな図書に親しみ、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。								☐			
				ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、幅広く読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。								☐			
				ウ 言葉がもつよさを認識するとともに、進んで読書をし、国語を大切にして、思いや考えを伝え合おうとする態度を養う。									☐		
社会科				教科の目標				段階							
教科の目標	＜中学部＞ 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考えたり関連付けたりする活動を通して、自立し生活を豊かにするとともに、平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	中	知識及び技能	(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して理解するとともに、経験したことと関連付けて、調べまとめる技能を身に付けるようにする。											
		高		(1) 地域や我が国の国土の地理的環境、現代社会の仕組みや役割、地域や我が国の歴史や伝統と文化及び外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。											
		中		(2) 社会的事象について、自分の生活と結びつけて具体的に考え、社会との関わりの中で、選択・判断したことを適切に表現する力を養う。											
	＜高等部＞ 社会的な見方・考え方を働かせ、社会的事象について関心をもち、具体的に考察する活動を通して、グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の形成者に必要な公民としての資質・能力の基礎を次のとおり育成することを目指す。	高	思考力、判断力、表現力等	(2) 社会的事象の特色や相互の関連、意欲を多角的に考えたり、自分の生活と結び付けて考えたり、社会への関わり方を選択・判断したりする力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。											
		中	学びに向かう力、人間性等	(3) 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土と歴史に対する愛情、我が国の将来を担う国民としての自覚、世界の国々の人々と共に生きていくことの大切さについての自覚などを養う。											
段階の目標	知識及び技能			ア 身近な地域や市区町村の地理的環境、地域の安全を守るための諸活動、地域の産業と消費生活の様子及び身近な地域の様子の移り変わり並びに社会生活に必要なきまり、公共施設の役割及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、自分との関わりが分かるとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。						☐					
				ア 自分たちの都道府県の地理的環境の特色、地域の人々の健康と生活環境を支える役割、自然災害から地域の安全を守るための諸活動及び地域の伝統と文化並びに社会参加するためのきまり、社会に関する基本的な制度及び外国の様子について、具体的な活動や体験を通して、人々の生活との関連を踏まえて理解するとともに、調べまとめる技能を身に付けるようにする。							☐				
				ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、農業や水産業の現状、産業と経済との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。								☐			
				ア 我が国の国土の様子と国民生活、自然環境の特色、先人の業績や優れた文化遺産、社会参加するためのきまり、公共施設の役割と制度、工業の現状、産業と情報との関わり、外国の様子について、様々な資料や具体的な活動を通して、社会生活との関連を踏まえて理解するとともに、情報を適切に調べまとめる技能を身に付けるようにする。									☐		
	思考力、判断力、表現力等			イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する基礎的な力を養う。							☐				
				イ 社会的事象について、自分の生活や地域社会と関連付けて具体的に考えたことを表現する力を養う。								☐			
				イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを表現する力を養う。								☐			
				イ 社会的事象の特色や相互の関連、意味を多角的に考える力、自分の生活と結び付けて考える力、社会への関わり方を選択・判断する力、考えたことや選択・判断したことを適切に表現する力を養う。									☐		
	学びに向かう力、人間性等			ウ 身近な社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。							☐				
				ウ 社会に自ら関わろうとする意欲をもち、地域社会の中で生活することの大切さについての自覚を養う。								☐			
				ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。									☐		
				ウ 社会に主体的に関わろうとする態度や、よりよい社会を考え学習したことを社会生活に生かそうとする態度を養うとともに、多角的な思考や理解を通して、地域社会に対する誇りと愛情、地域社会の一員としての自覚、我が国の国土に対する愛情、我が国の歴史や伝統を大切にして国を愛する心情、我が国の産業の発展を願い我が国の将来を担う国民としての自覚や平和を願う日本人として世界の国々の人々と共に生きることの大切さについての自覚を養う。									☐		

学びの履歴を把握するための各教科目標・内容一覧表（試案）

音楽科				教科の目標		段階							
教科の目標	<小学部> 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活の中の音や音楽に興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 <中学部> 表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに興味や関心をもって関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 <高等部> 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1)曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、感じたことを音楽表現するために必要な技能を身に付けるようにする。	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階		
		中		(1)曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。									
		高		(1)曲想と音楽の構造などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な技能を身に付けるようにする。									
		小	思考力、判断力、表現力等	(2)感じたことを表現することや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら、音や音楽の楽しさを味わって聴くことができるようにする。									
		中		(2)音楽表現を考えるとことや、他の演奏のよさなどを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。									
		高		(2)音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができる。									
		小	学びに向かう力、人間性等	(3)音や音楽に楽しく関わり、協議して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、身の回りの様々な音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。									
		中		(3)進んで音や音楽に関わり、協議して音楽活動をする楽しさを感じるとともに、様々な音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情報を培う。									
		高		(3)音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しんでいく態度を養い、豊かな情操を培う。									
段階の目標	知識及び技能		ア 音や音楽に注意を向けて気付くとともに、関心に向け、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりにつながる技能を身に付けるようにする。	☐									
			ア 曲名や曲想と簡単な音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。		☐								
			ア 曲名や曲想と音楽のつくりについて気付くとともに、音楽表現を楽しむために必要な身体表現、器楽、歌唱、音楽づくりの技能を身に付けるようにする。			☐							
			ア 曲名や曲の雰囲気と音楽の構造などとの関わりについて気付くとともに、音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。				☐						
			ア 曲名や曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、音楽づくり、身体表現の技能を身に付けるようにする。					☐					
			ア 曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。						☐				
			ア 曲想と音楽の構造や背景などとの関わり及び音楽の多様性について理解するとともに、創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な歌唱、器楽、創作、身体表現の技能を身に付けるようにする。							☐			
	思考力、判断力、表現力等		イ 音楽的な表現を楽しむことや、音や音楽に気付きながら関心や興味をもって聴くことができるようにする。	☐									
			イ 音楽表現を工夫することや、表現することを通じて、音や音楽に興味をもって聴くことができるようにする。		☐								
			イ 音楽表現に対する思いをもつことや、曲や演奏の楽しさを見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。			☐							
			イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、音や音楽を味わいながら聴くことができるようにする。				☐						
			イ 音楽表現を考えて表したい思いや意図をもつことや、曲や演奏のよさを見いだしながら、音や音楽を味わって聴くことができるようにする。					☐					
			イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽のよさや美しさを自分なりに見いだしながら音楽を味わって聴くことができるようにする。						☐				
			イ 音楽表現を創意工夫することや、音楽を自分なりに評価しながらよさや美しさを味わって聴くことができるようにする。							☐			
	学びに向かう力、人間性等		ウ 音や音楽に気付いて、教師と一緒に音楽活動をする楽しさを感じるとともに、音楽経験を生かして生活を楽しいものにしようとする態度を養う。	☐									
			ウ 音や音楽に関わり、教師と一緒に音楽活動をする楽しさに興味をもちながら、音楽経験を生かして生活を明るく楽しいものにしようとする態度を養う。		☐								
			ウ 音や音楽に対して楽しく関わり、協議して音楽活動をする楽しさを感じながら、身の回りの様々な音楽に興味をもつとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。			☐							
			ウ 進んで音や音楽に関わり、協議して音楽活動をする楽しさを感じながら、様々な音楽に触れるとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。				☐						
			ウ 主体的に楽しく音や音楽に関わり、協議して音楽活動をする楽しさを味わいながら、様々な音楽に親しむとともに、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにしようとする態度を養う。					☐					
			ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しみ、音楽経験を生かして生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。						☐				
			ウ 主体的・協働的に表現及び鑑賞の学習に取り組み、音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽文化に親しむとともに、音楽によって生活を明るく豊かなものにしていく態度を養う。							☐			
〔共通事項〕	小学部		ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。	☐	☐	☐							
			イ 絵譜や色を用いた音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて、その意味に触れること。	☐	☐	☐							
〔共通事項〕	中学部		ア 音楽を形づくっている要素を聴き取り、それらの働きが生み出すよさや面白さ、美しさを感じ取りながら、聴き取ったことと感じ取ったこととの関わりについて考えること。				☐	☐					
			イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる音符、休符、記号や用語について、音楽における働きと関わらせて理解すること。				☐	☐					
〔共通事項〕	高等部		ア 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質や雰囲気を感知しながら、知覚したことと感受したこととの関わりについて考えること。						☐	☐			
			イ 音楽を形づくっている要素及びそれらに関わる用語や記号などについて、音楽における働きと関わらせて理解すること。						☐	☐			
図画工作・美術科				教科の目標		段階							
教科の目標	<小学部> 表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の形や色などと豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 <中学部> 表現及び鑑賞の活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。 <高等部> 表現及び鑑賞の幅広い活動を通して、造形的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の美術や美術文化と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1)形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や道具を使い、表し方を工夫してつくることができるようにする。	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階		
		中		(1)造形的な視点について理解し、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。									
		高		(1)造形的な視点について理解するとともに、表現方法を創意工夫し、創造的に表すことができるようにする。									
		小	思考力、判断力、表現力等	(2)造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。									
		中		(2)造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや材料などを基に、発想し構想するとともに、造形な作品などを鑑賞し、自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。									
		高		(2)造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。									
		小	学びに向かう力、人間性等	(3)つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養い、豊かな情操を培う。									
		中		(3)創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かな生活を営む態度を養い、豊かな情操を培う。									
		高		(3)美術の創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を育み、感性を豊かにし、心豊かに生活を創造していく態度を養い、豊かな情報を培う。									
段階の目標	知識及び技能		ア 形や色などに気付き、材料や用具を使おうとするようにする。	☐									
			ア 形や色などの違いに気付き、表したいことを基に材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。		☐								
			ア 形や色などの造形的な視点に気付き、表したいことに合わせて材料や用具を使い、表し方を工夫してつくるようにする。			☐							
			ア 造形的な視点について気付き、材料や用具の扱い方に親しむとともに、表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。				☐						
			ア 造形的な視点について理解し、材料や用具の扱い方などを身に付けるとともに、多様な表し方を工夫する技能を身に付けるようにする。					☐					
			ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて表現方法を工夫して表すことできるようにする。						☐				
			ア 造形的な視点について理解するとともに、意図に応じて自分の表現方法を追求して創造的に表すことができるようにする。							☐			
	思考力、判断力、表現力等		イ 表したいことを思い付いたり、作品を見たりできるようにする。	☐									
			イ 表したいことを思い付いたり、 作品などの面白さや楽しさを感じ取ったりすることができるようにする。		☐								
			イ 造形的なよさや美しさ、表したいことや表し方などについて考え、発想や構想をしたり、身の回りの作品などから自分の見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。			☐							
			イ 造形的なよさや面白さ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや思ったこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、身近にある造形や作品などから、自分の見方や感じ方を広げることができるようにする。				☐						
			イ 造形的なよさや面白さ、美しさ、表したいことや表し方などについて考え、経験したことや想像したこと、材料などを基に、発想し構想するとともに、自分たちの作品や美術作品などに親しみ自分の見方や感じ方を深めることができるようにする。					☐					
			イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を広げたりすることができるようにする。						☐				
			イ 造形的なよさや美しさ、表現の意図と創造的な工夫などについて考え、主題を生み出し豊かに発想し構想を練ったり、美術や美術文化などに対する見方や感じ方を深めたりすることができるようにする。							☐			
	学びに向かう力、人間性等		ウ 進んで表したり見たりする活動に取り組み、つくりだすことの楽しさに気付くとともに、形や色などに関わることにより楽しい生活を創造しようとする態度を養う。	☐									
			ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを感じるとともに、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。		☐								
			ウ 進んで表現や鑑賞の活動に取り組み、つくりだす喜びを味わうとともに、感性を育み、形や色などに関わることにより楽しく豊かな生活を創造しようとする態度を養う。			☐							
			ウ 楽しく美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を営む態度を養う。				☐						
			ウ 主体的に美術の活動に取り組み、創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を高め、心豊かな生活を営む態度を養う。					☐					
			ウ 楽しく美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を培い、心豊かな生活を創造していく態度を養う。						☐				
			ウ 主体的に美術の活動に取り組み創造活動の喜びを味わい、美術を愛好する心情を深め、心豊かな生活を創造していく態度を養う。							☐			

学びの履歴を把握するための各教科目標・内容一覧表（試案）

〔共通事項〕	小学部			(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などについて気付くこと。		☐														
				(ア) 自分が感じたことや行ったことを通して、形や色などの違いに気付くこと。		☐														
				(ア) 自分の感覚や行為を通して、形や色などの感じに気付くこと。			☐													
				(イ) 形や色などを基に、自分のイメージをもつこと。		☐	☐													
				(イ) 形や色などの感じを基に、自分のイメージをもつこと。				☐												
	中学部			(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について知ること。					☐											
				(ア) 形や色彩、材料や光などの特徴について理解すること。						☐										
				(イ) 造形的な特徴などからイメージをもつこと。						☐										
				(イ) 造形的な特徴などからイメージを捉えること。							☐									
												☐	☐							
高等部			(ア) 形や色彩、材料や光などの働きを理解すること。								☐	☐								
			(イ) 造形的な特徴などから全体のイメージでと捉えることを理解すること。								☐	☐								
体育・保健体育													教科の目標				段階			
教科の目標	<小学部> 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題に気付き、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを実現するための資質、能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1)遊びや基本的な運動の行い方及び身近な生活における健康について知るとともに、基本的な動きや健康な生活に必要な事柄を身に付けるようにする。	小学部1段階	小学部2段階	小学部3段階	中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階									
		中		(1)各種の運動の特性に応じた技能等及び自分の生活における健康・安全について理解するとともに、基本的な技能を身に付けるようにする。																
		高		(1)各種の運動の特性に応じた技能等並びに個人生活及び社会生活における健康・安全についての理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。																
		<中学部> 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を見付け、その解決に向けた学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを表現するための資質、能力を次のとおり育成することを目指す。	小	思考力、判断力、表現力等								(2)遊びや基本的な運動及び健康についての自分の課題に気付き、その解決に向けて自ら考え行動し、他者に伝える力を養う。								
			中									(2)各種の運動や健康・安全についての自分の課題を見付け、その解決に向けて自ら思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。								
			高									(2)各種の運動や健康・安全についての自他や社会の課題を発見し、その解決に向けて仲間と思考し判断するとともに、目的や状況に応じて他者に伝える力を養う。								
	<高等部> 体育や保健の見方・考え方を働かせ、課題を発見し、合理的・計画的な解決に向けた主体的・協働的な学習過程を通して、心と体を一体として捉え、生涯にわたって心身の健康を保持増進し、豊かなスポーツライフを継続するための資質、能力を次のとおり育成することを目指す。	小	学びに向かう力、人間性等	(3)遊びや基本的な運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、楽しく明るい生活を営む態度を養う。																
		中		(3)生涯にわたって運動に親しむことや健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かな生活を営む態度を養う。																
		高		(3)生涯にわたって継続して運動に親しむことや、健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力のある生活を営む態度を養う。																
	段階の目標	知識及び技能										ア 教師と一緒に、楽しく体を動かすことができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
												ア 教師の支援を受けながら、楽しく基本的な運動ができるようにするとともに、健康な生活に必要な事柄ができるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
												ア 基本的な運動の楽しさを感じ、その行い方を知り、基本的な動きを身に付けるとともに、健康や身体の変化について知り、健康な生活ができるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	
			ア 各種の運動の楽しさや喜びに触れ、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方が分かり、基本的な動きや技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐										
			ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた行い方及び体の発育・発達やけがの防止、病気の予防などの仕方について理解し、基本的な技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐										
			ア 各種の運動の楽しさや喜びを味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活に必要な健康・安全に関する事柄などを理解するとともに、技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐										
思考力、判断力、表現力等				ア 各種の運動の楽しさや喜びを深く味わい、その特性に応じた技能等や心身の発育・発達、個人生活及び社会生活に必要な健康・安全に関する事柄などの理解を深めるとともに、目的に応じた技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				イ 体を動かすことの楽しさや心地よさを表現できるようにするとともに、健康な生活を営むために必要な事柄について教師に伝えることができるようにする。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				イ 基本的な運動に慣れ、その楽しさや感じたことを表現できるようにするとともに、健康な生活に向け、感じたことを他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				イ 基本的な運動の楽しみ方や健康な生活の仕方について工夫するとともに、考えたことや気付いたことなどを他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				イ 各種の運動や健康な生活における自分の課題を見付け、その解決のための活動を考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				イ 各種の運動や健康な生活における自分やグループの課題を見付け、その解決のために友達と考えたり、工夫したりしたことを他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
学びに向かう力、人間性等				イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、その解決のための方策を工夫したり、仲間と考えたりしたことを、他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐								
				イ 各種の運動や健康・安全な生活を営むための自他の課題を発見し、よりよい解決のために仲間と思考し判断したことを、目的な状況に応じて他者に伝える力を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐								
				ウ 簡単な合図や指示に従って、楽しく運動をしようとして、健康に必要な事柄をしようとしてする態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐								
				ウ 簡単なきまりを守り、友達とともに安全に楽しく運動をしようとして、健康に必要な事柄をしようとしてする態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐								
				ウ きまりを守り、自分から友達と仲よく楽しく運動をしたり、場や用具の安全に気を付けたりしようとするとともに、自分から健康に必要な事柄をしようとする態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐								
				ウ 各種の運動に進んで取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と協力したり、場や用具の安全に留意したりし、最後まで楽しく運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進に進んで取り組む態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				ウ 各種の運動に積極的に取り組み、きまりや簡単なスポーツのルールなどを守り、友達と助け合ったり、場や用具の安全に留意したりし、自己の最善を尽くして運動をする態度を養う。また、健康・安全の大切さに気付き、自己の健康の保持増進と回復に進んで取り組む態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
				ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、自己の最善を尽くして自主的に運動する態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に積極的に取り組む態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐									
		ウ 各種の運動における多様な経験を通して、きまりやルール、マナーなどを守り、自己の役割を果たし仲間と協力したり、場や用具の安全を確保したりし、生涯にわたって運動に親しむ態度を養う。また、健康・安全に留意し、健康の保持増進と回復に自主的に取り組む態度を養う。	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐	☐										
職業・家庭													教科の目標（職業分野）				段階			
教科の目標	<中学部> 生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	中	知識及び技能	(1)生活や職業に関する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。				中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階									
		高		(1)職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。																
		中		(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事例を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。																
		<高等部> 職業に係る見方・考え方を働かせ、職業など卒業後の進路に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	高	思考力、判断力、表現力等								(2)将来の職業生活を見据え、必要な事例を見出して課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。								
			中	学びに向かう力、人間性等								(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。								
			高									(3)よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。								
	知識及び技能									ア 職業について関心をもち、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐							
										ア 働くことに対する関心を高め、将来の職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐							
										ア 職業に関する事柄について理解するとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。	☐	☐	☐							
				ア 職業に関する事柄について理解を深めるとともに、将来の職業生活に係る技能を身に付けるようにする。						☐	☐	☐								
	思考力、判断力、表現力等			イ 将来の職業生活に必要な事柄に触れ、課題や解決策に気付き、実践し、学習したことを伝えるなど、課題を解決する力の基礎を養う。						☐	☐	☐								
				イ 将来の職業生活に必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。						☐	☐	☐								
				イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価し、表現する力を養う。	☐	☐	☐													
				イ 将来の職業生活を見据え、必要な事柄を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、表現する力を養う。	☐	☐	☐													
	学びに向かう力、人間性等			ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。	☐	☐	☐													
				ウ 将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。	☐	☐	☐													
		ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への参画に向けて、生活を工夫しようとする実践的な態度を養う。	☐	☐	☐															
		ウ よりよい将来の職業生活の実現や地域社会への貢献に向けて、生活を改善しようとする実践的な態度を養う。	☐	☐	☐															

学びの履歴を把握するための各教科目標・内容一覧表(試案)

職業・家庭			教科の目標（家庭分野）				段階					
教科の目標	＜中学部＞ 生活の営みに係る見方・考え方や職業の見方・考え方を働かせ、生活や職業に関する実践的・体験的な学習活動を通して、よりよい生活の実現に向けて工夫する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	中	知識及び技能	(1)生活や職業に関する関心を高め、将来の家庭生活や職業生活に係る基礎的な知識や技能を身に付けさせるようにする。					中学部1段階	中学部2段階	高等部1段階	高等部2段階
		高		(1)家庭・家族の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。								
		中	思考力、判断力、表現力等	(2)将来の家庭生活や職業生活に必要な事例を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、自分の考えを表現するなどして、課題を解決する力を養う。								
		高		(2)家族や地域における生活の中から課題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。								
		中	学びに向かう力、人間性等	(3)よりよい家庭生活や将来の職業生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。								
		高		(3)家族や地域の人々との関わりを考え、家族の一人として、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。								
	知識及び技能			A 家庭の中の自分の役割に気づき、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。				□				
				A 家族や自分の役割について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。					□			
				A 家族・家庭の機能について理解し、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。						□		
				A 家族・家庭の機能について理解を深め、生活の自立に必要な家族・家庭、衣食住、消費や環境等についての基礎的な理解を図るとともに、それらに係る技能を身に付けるようにする。							□	
	思考力、判断力、表現力等			イ 家庭生活に必要な事柄について触れ、課題や解決策に気づき、実践し、学習したことを伝えるなど、日常生活において課題を解決する力の基礎を養う。				□				
				イ 家庭生活に必要な事柄について考え、課題を設定し、解決策を考え、実践し、学習したことを振り返り、考えたことを表現するなど、日常生活において課題を解決する力を養う。					□			
				イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。						□		
				イ 家庭や地域における生活の中から問題を見いだして課題を設定し、解決策を考え、実践を評価・改善し、考えたことを表現するなど、課題を解決する力を養う。							□	
	学びに向かう力、人間性等			ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫しようとする態度を養う。				□				
				ウ 家族や地域の人々とのやりとりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。					□			
				ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。						□		
				ウ 家族や地域の人々との関わりを通して、よりよい生活の実現に向けて、生活を工夫し考えようとする実践的な態度を養う。							□	
	外国語活動・外国語 教科の目標				教科の目標				段階			
	教科の目標	＜小学部外国語活動＞ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語や外国の文化に触れることを通して、コミュニケーションを図る素地となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	小	知識及び技能	(1)外国語を用いた体験的な活動を通して、日本語と外国語の音声の違いなどに気づき、外国語の音声に慣れ親しむようにする。					高等部1段階	高等部2段階	
			中		(1)外国語を用いた体験的な活動を通して、身近な生活で見聞きする外国語に興味や関心をもち、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむようにする。							
			高		(1)外国語の音声や文字、語彙、表現、言語の働きなどについて、日本語と外国語の違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、読むこと、話すこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な技能を身に付けるようにする。							
小			思考力、判断力、表現力等	(2)身近で簡単な事柄について、外国語に触れ、自分の気持ちを伝え合う力の素地を養う。								
中				(2)身近で簡単な事柄について、外国語で聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う力の素地を養う。								
高				(2)コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。								
＜高等部外国語科＞ 外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方を働かせ、外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動を通して、コミュニケーションを図る基礎となる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。		小	学びに向かう力、人間性等	(3)外国語を通して、外国の文化などに触れながら、言語への関心を高め、進んでコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。								
		中		(3)外国語を通して、外国語やその背景にある文化の多様性を知り、相手に配慮しながらコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。								
		高		(3)外国語の背景にある文化に対する理解を深め、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。								
		知識及び技能		A 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すことを中心とした実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。 A 音声や文字、語彙、表現などについて日本語と外国語との違いに気付くとともに、読むこと、書くことに慣れ親しみ、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことによる実際のコミュニケーションにおいて活用できる基礎的な力を身に付けるようにする。				□				
				イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙などを真似ながら読んだり、外国語の文字をなぞって書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。 イ コミュニケーションを行う目的や場面、状況などに応じて、身近で簡単な事柄について、聞いたり話したりするとともに、音声で十分慣れ親しんだ外国語の語彙などが表す事柄を想像しながら読んだり、書いたりして、自分の考えや気持ちなどを伝え合うことができる基礎的な力を養う。								□
		学びに向かう力、人間性等		ウ 外国語の背景にある文化について理解し、相手に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。				□				
	ウ 外国語の背景にある文化について理解し、他者に配慮しながら、主体的に外国語を用いてコミュニケーションを図ろうとする態度を養う。					□						
情報 教科の目標				教科の目標				段階				
教科の目標	情報に関する科学的な見方・考え方を働かせ、身近にある情報機器の操作の習得を図りながら、問題の買いかけるを行う学習活動を通して、問題を知り、問題の解決に向けて情報と情報技術を適切かつ効果的に活用し、情報社会に主体的に参画するための資質・能力を次のとおり育成することを目指す。	高	知識及び技能	(1)身近にある情報と情報技術及びこれらを活用して問題を知り、問題を解決する方法について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解できるようにする。					高等部1段階	高等部2段階		
			思考力、判断力、表現力等	(2)身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。								
			学びに向かう力、人間性等	(3)身近にある情報や情報技術を適切に活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。								
	知識及び技能		A 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピューターやデータの活用について知り、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて知る。				□					
			A 効果的なコミュニケーションの方法や、身近にあるコンピューターやデータの活用について理解し、基礎的な技能を身に付けるとともに、情報社会と人との関わりについて理解する。								□	
	思考力、判断力、表現力等		イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を活用する力を養う。				□					
		イ 身近な事象を情報とその結び付きとして捉え、問題を知り、問題を解決するために必要な情報と情報技術を適切かつ効果的に活用する力を養う。					□					
学びに向かう力、人間性等		ウ 身近にある情報や情報技術を活用するとともに、情報社会に関わろうとする態度を養う。				□						
		ウ 身近にある情報や情報技術を活用するとともに、情報社会に参画しようとする態度を養う。										